

## 今号の作業

# ファイナルドリブンスプロケットを磨く



今号では、リヤホイールを駆動させるファイナルドリブンスプロケットを提供する。このパーツは、金属の質感を最大限に引き出せるよう、あえて塗装やコーティングを施していない。市販の研磨剤などを使って、好みの質感になるまで磨こう。地味な作業だが、これも金属製モデルならではの醍醐味だ。

### 今号のパーツ



・ファイナルドリブンスプロケット×1

#### 使用する道具

- ・グリス(6号で提供したもの)
- ・市販の研磨剤
  - ※「ピカール」を推奨／ホームセンターなどで入手可能。
  - ※プラスチックモデル用コンパウンド、台所用のクレンザー洗剤、歯磨き粉でも代用可。
- ・歯ブラシ(使い古したもの)
  - ※金属製タワシ(スチールウール)や金属ブラシは使用不可。
- ・ウェス(柔らかい雑巾)

#### 用意するもの

- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。  
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

STEP  
1



まず道具を用意しよう。お勧めの研磨剤は「ピカール」で、プラスチックモデル用コンパウンドでも代用可能。台所用クレンザー洗剤や歯磨き粉も使えるが、その場合は最後にパーツを洗浄し、しっかりと乾かすように。

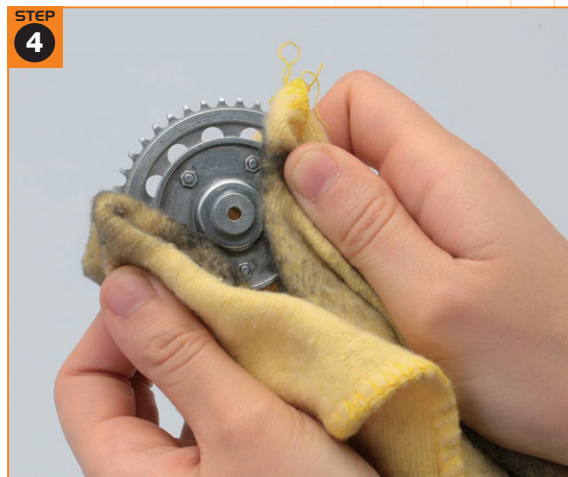
STEP  
2



使い古しの歯ブラシにウェスを巻き付け、そこに研磨剤を付ける。歯ブラシだけでは研磨剤の効果を十分に引き出せないので、必ずウェスを併用しよう。



ファイナルドリブンスプロケットを用意し、研磨剤を表面に塗り広げながら磨く。研磨剤が黒っぽく汚れたら拭き取り、新しく付け直して磨く。これを何度も繰り返して、好みの金属光沢が出るまで続ける。



好みの質感に近付いてきたら、ウェスでパーツを包み込むようにして磨き上げる。特に外周の『歯』は、チェーンと噛み合う部分なので入念に磨いておこう。



十分に磨いたら、ウェスのきれいな部分に、6号で提供したグリスを塗布し、パーツの表面に擦り込む。こうすることでパーツ表面に皮膜を作り、サビの発生を防止する。

## 今号の完成

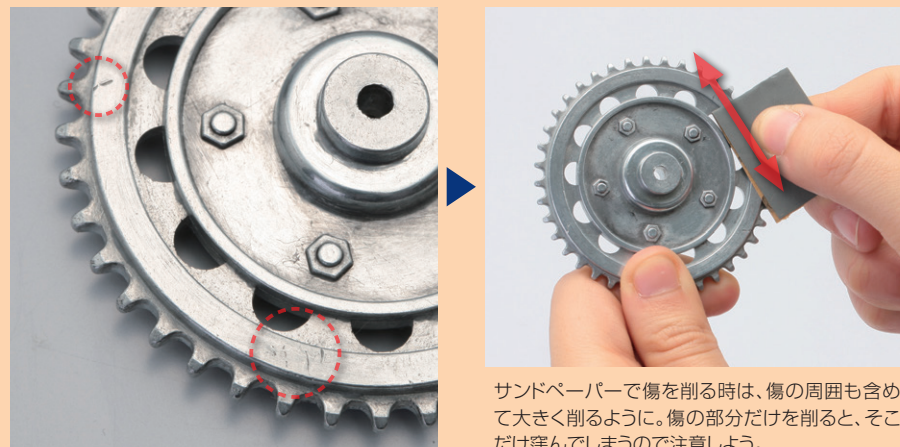


提供したパーツと、研磨後のパーツを比較してみた。研磨後の方が、明らかに金属の質感を感じられるはずだ。今号の作業は一応、この段階で終了となる。

スプロケットをホイールから取り外し、ビニール袋へ入れて保管する。ダイキャスト製パーツはさびやすいので、塗布したグリスの皮膜が浸透するまでは、できるだけ空気に触れないようにする。

## × パーツに傷を付けてしまった場合の対処 ×

ダイキャスト製パーツの表面は、意外と傷が付きやすい。表面だけなら研磨で対処できるが、写真のような傷はサンドペーパーで少し削る必要がある。耐水サンドペーパーの、400番→600番→1000番の3種類を順に使えば目立たなくすることができる。



サンドペーパーで傷を削る時は、傷の周囲も含めて大きく削るように。傷の部分だけを削ると、そこだけ窪んでしまうので注意しよう。